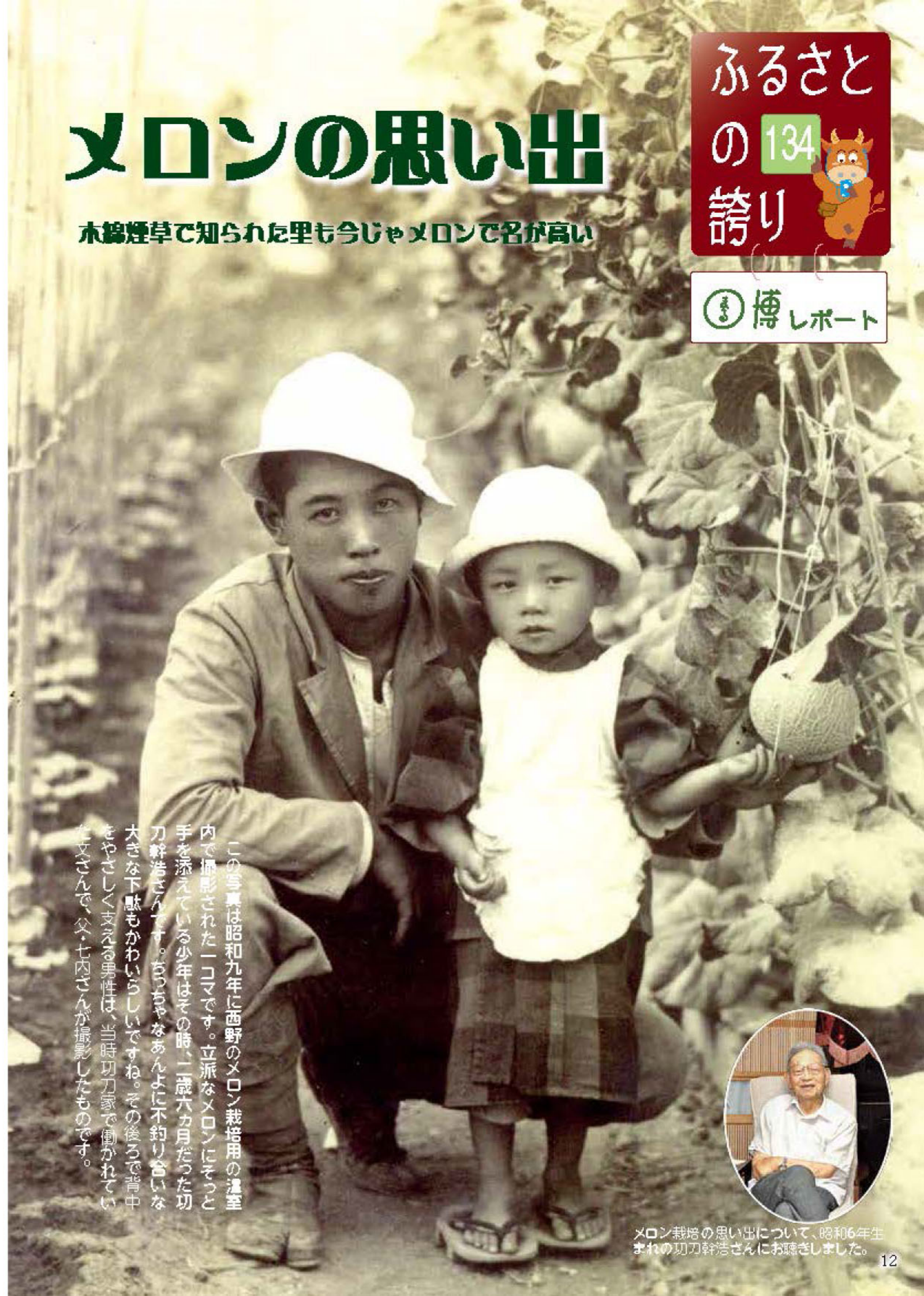




# メロンの思い出

木綿煙草で知られた里も今じゃメロンで名が高い



この写真は昭和九年に西野のメロン栽培用の温室  
内で撮影された「コマ」です。立派なメロンにそっと  
手を添えている少年はその時、二歳六カ月だった切  
刀幹浩さんです。ちっちゃなあんよに不釣り合いな  
大きな下駄もかわいらしいですね。その後で背中  
をやさしく支える男性は、当時切刀家で働かされてい  
た文さんで、父・七内さんが撮影したものです。



メロン栽培の思い出について、昭和6年生  
まれの切刀幹浩さんにお話をしました。

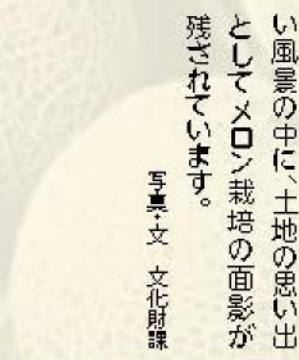
かつて、戦前まで南アルプス市で大規模に行  
なわれていたメロン栽培は、西野地区の一人の若  
者から始まります。切刀幹浩さんの父・切刀七  
内さんが大正十三年秋、愛知県の清州試験場に  
温室栽培を学びに行ったのがきっかけでした。  
一カ月の研修中にガラス製温室の設計図を作成  
し、ごうごうと家長の七内さんと相談して、翌大正  
十四年三月に南アルプス市ではじめてのガラス  
温室を西野地区内に建設しました。

このガラス温室は実はメロン用ではなく、ブ  
ドウのためのものですが、ブドウの苗が育つ  
までの期間をつなぐためとしてメロンも栽培し、  
早速立派に実ったメロンを東京の有名なフルー  
ツパーラーに出荷したところ大好評となり、七  
内さんはメロン栽培の有利性に気づいたよう  
です。下の写真は、昭和九年  
に撮影された切刀家のガ  
ラス温室群です。一番右  
側のひとまわり小さなも  
のが最初の温室です。こ  
こから西野のメロン栽培



が始まったのです。右側奥に見える煙突は、昭和  
二年設置の石炭を燃料とするボイラーの煙突で  
す。幹浩さんの思い出によると、ボイラー室で  
は二人が交代で二十四時間の番をしていたそう  
で、幼い幹浩少年もよく遊びに行っていたそう  
です。温室メロン栽培は、その後、近在の農家に瞬  
く間に広まり、昭和十四年をピークとする急激  
な温室建設ラッシュが起りました。釜無川の  
対岸から眺めればガラスの反射で西野一帯が  
輝いていたと言われ、「木綿煙草で知られた里も  
今じゃメロンで名が高い」(西野小唄)と唄われ  
たほどでした。

また、光に反射して敵機の目印になりやすい温  
室のガラスは外されてしまい、メロン栽培は壊  
滅的な状況になります。  
戦争に翻弄された西野のメロン産業ですが、  
先駆的な取り組みで培った技術や思想は、その  
後の南アルプス地域の果樹生産者の姿勢に多く  
の影響を与えています。父・七内さんの仕事を  
身近に見て育った幹浩さんも、「甲斐路」の栽培  
技術の確立に活躍されるなど、戦後の南アルプ  
ス市果樹産業発展に力を注いだ一人です。  
西野で始まったメロン栽培は南アルプス市内  
各地へと広まりました。現在でも市内を巡ると、  
メロン栽培のため池や、ガラスを板に替えて作  
業小屋に転用した温室が現存しているのを見か  
けます。忘れ去られている歴史ですが、何気な  
い風景の中に、土地の思い出  
としてメロン栽培の面影が  
残されています。



南アルプス市  
ふるさと博物館  
Furusato Maru-Maru Museum

農業散布車「SS」の古い写真を探しています！  
ふるさと文化伝承館  
電話：055-282-7408

ふるさと文化伝承館は、設備の改修工事のため2月まで休館中です。  
天然温泉「樹園」は営業しています。これまで通りご利用ください。ご迷惑を  
おかけしておりますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。